

圃場間・圃場内における作物の収量変動要因の解明 —日本型精密農業を目指して—

応用生物科学部
生産環境科学課程
応用植物科学コース
助教 田中 貴



近年、日本農業の大規模化が進められています。それによって、作業の効率化は進んだものの、圃場間・圃場内における作物の生育ムラが問題となっており、大規模農業における作物の収量・品質の高位安定化に向けて新たな栽培技術が求められています。しかし、作物の収量・品質は、土壌・気象・農家の栽培管理技術などの複数の要因の影響を受けるため、これまで広域の評価は困難でした。そこで、UAVリモートセンシングや多変量解析などの手法を武器に、農家圃場における作物生産の制限要因を評価し、最終的には局所管理技術・農業従事者の意思決定を支援する営農戦略体型(精密農業)の開発による作物生産の高位安定化を目指しています。(参考 圃場:農作物を栽培する水田や畑)

